

ブドウ摘粒学ぼう 初心者対象に講座

掲載日：令和 7 年 7 月 8 日（火）

南多摩農業改良普及センターと J A 東京みなみは 6 月中旬、稲城市内の畑で農業実践力養成セミナー（第 16 期 J A 東京みなみ就農者基礎講座と合同開催）の第 9 回目となる講座を開いた。

このセミナーは就農間もない農家や、就農予定の人方向けに管内の先進農家らが講師を務める。

今回の講義は果樹栽培が盛んな管内の特産ブドウの摘粒作業。市内農家で稲城市高尾ぶどう生産組合の白井清治副組合長が講師となり、受講生 2 人が実習した。白井副組合長は「高尾ぶどう」だけでなく「藤稔」や「シャインマスカット」も生産しており、今回の実習ではこの 3 品種の摘粒を行った。

白井副組合長の実演で、品種別の摘粒後の粒数の目安や残す果粒の特徴などについて説明を受けた。また、今年は黒とう病の被害が多く、病斑の発生している果粒は優先的に摘粒し、病気の拡大を防ぐという説明もあった。

実際に摘粒作業を体験した受講生からは「最終的な房の形を想像しながら粒を抜いていくのが難しい。病気などのことも考え、工夫しながら、全てのブドウの摘粒を行う大変さが分かった。」と話した。



ブドウの摘粒作業の指導をする白井副組合長（写真右）（東京都稲城市で）